

古文書・歴史的建造物保存活用 部会活動状況報告

この2年間の主な活動内容をご報告します。なお、ボランティアガイド部会、岩蔵部会等との協力の下で事業を実施しました。

1. 古文書定例勉強会

東北学院大学斎藤善之教授のご指導のもと、週1回の勉強会を続けている。震災後は一時中断したが、被災状況の巡視を目的とした街歩きから再開。現在は斎藤教授のご指導により、『塩釜町方留書』の翻刻を行っている。

2. 鈴木家の保存活動

海岸通の鈴木家は、「仲忠」との屋号で知られ、本市水産界を代表する老舗の一つ。同家が津波被災により解体されることとなった。当NPOとして、同家が水産業界で果たしてきた役割や、同家の建築学的価値を、東北学院大学斎藤善之教授、東北工業大学高橋恒夫教授に分析いただき、本市にとって極めて貴重な建造物であることを確認した。これを受け、同家の枠組みを再建可能な形で保管している。



3. 鈴木家文書類のデータ化活動

上記鈴木家からは、同家が本市の水産業界で果たしてきた役割を物語る多くの資料が提供された。これらを斎藤善之教授の指導のもと、デジタルデータとして保存した。

4. 市川旅館の神棚の保存活動

同旅館には極めて大きな神棚が祀られてきたが、震災により建物と共に解体されることになった。同家は本市の江戸時代の繁栄を伝える家柄であり、その遺構として、搬出、保存している。



5. 今忠文具店の屏風下張文書・八百大佐藤家文書の保存

今忠文具店の蔵に所蔵されていた古い屏風は震災により廃棄されることになった。下張には弘化の年号が記載された文書などが使われており、斎藤善之教授の指導の下、一枚一枚剥がしてデジタルデータ化し保存した。また、八百大佐藤家からも江戸時代の文書が提供され、デジタルデータ化し保存した。

6. 『写真集 塩竈 東日本大震災の記録』の出版

被災1年半という節目の平成24年9月11日付で、標記写真集を出版した。ボランティアガイド部会からの「記憶の風化を防ぐとともに、後世へ伝承したい」との強い要請を受け、斎藤善之教授の指導の下、第1刷1500部（10月上旬完売）、第2刷1000部（10月3日発行）を発行した。市教育委員会などへの寄贈も行った。出版に際しては多くの方々からのご協賛や、写真、資料の提供をいただいた。

7. 『新釀 奥塩地名集』の出版

平成22年12月23日、『新釀 奥塩地名集』を発行した。これは古文書部会の6年にわたる活動の集大成として、斎藤善之教授が監修され、古文書部会として発行したもの。江戸時代の塩竈が今に甦るとともに、塩竈を考える貴重な資料となっている。さらに、織り込まれた写真は東日本大震災以前の塩竈のまちの風景を残している。その後、塩竈市教育委員会ではこれを教材とした塩竈学講座を開催し、本会から3名が講師を務めた。

ボランティアガイドの会 活動報告

NPO みなとしほがま ボランティアガイドの会

部会長 鈴木和榮 報告者 高橋幸三郎

ボランティアガイドの活動も順調に推移し、オフといわれる12月も休まず、ガイド活動を行っておりました。第9期が、当会にとっても飛躍の年となるべきときと考えていたまさにそのときに、東日本大震災が起きました。そして、その後数ヶ月、活動を続けられる状態ではありませんでしたが、2011年6月より、なんとか神社の定例ガイドを復活しました。そして、少しずつガイド依頼も来るようになり、第10期はガイド量も、ほぼ震災前の活動の状態に戻りました。

以前から、神社の境内だけでなく、「旅市」「駅長オススメの小さな旅」など、町歩きを組み込んだガイドなどにも取り組んできました。最近、特に感じることは、震災前と比べて、ガイドへの要望に変化が見られるようになったことです。ひとつは震災についてです。被災地として、塩竈を訪れた観光客からみれば、塩竈の現状を見て、「被害は少なかったですね。」といわれます。殊更に被災の状況を強調したいとは思いませんが、浦戸の状況や、町なかの被災の爪跡をきちんと正確に伝えたいと考えていますので、もっと伝え方の工夫も必要だと思います。また、塩竈についても、もっと知りたいとの声も聞きます。来期は「仙台宮城DC」の年でもあり、様々な切り口で「塩竈」の違った魅力を紹介していきたいと考えています。

1. 主な活動内容について

（1）塩竈神社境内のボランティアガイドの活動

毎週土・日の10:00～12:00まで、参拝客を対象に、無料にて実施しています。

平成22年10月 2日～平成23年9月25日の 48回

平成23年10月 1日～平成24年9月30日の 76回 合計 124回

概算で、約 2,400名の方をガイドしております。

（2）イベントへの参加

① みやぎ街道交流会主催 震災復興フォーラム『奥塩地名集』講演会＆観月舟

～東日本大震災復興にあたり～「『奥塩地名集』から多賀城～塩竈～松島を考える」

講師／東北学院大学経営学部教授 斎藤善之 氏 及びボランティアガイド会員

日時 平成23年10月10日（月：体育の日） 13:30～17:00

場所 瑞巌寺・陽徳院（松島）

協力 多賀城史跡案内サークル、おくの細道松島海道

※ 陽徳院の本堂において、上記フォーラムを開催しました。一般の方々を含め約

100名も参加。フォーラム終了後は、松島湾内を船で一周、芭蕉も気にかけた満月を楽しみました。



② 復興！全国「塩」サミット in 宮城 塩竈

平成 23 年 9 月 25 日 (日) 11:00 ふれあいエスプ

東日本大震災で甚大な被害があった塩竈で、その産業復興の象徴として「塩竈の藻塩」を核としたシンポジウムを主催者のメンバーとして開催しました。

主催 復興！全国「塩」サミット実行委員会

(構成：塩竈市 塩釜商工会議所 塩釜市青年四団体連絡協議会 合同会社顔晴れ塩竈
NPO みなとしほがま)



(3) その他のボランティアガイドの活動

- ① 第9期、10期と玉川小学校3年生 55名を神社境内や御釜神社などをガイドしました。
- ② ツアー客は、第9期は85回、約 1900名、 10期は113回、約 2300名を神社境内を中心にガイドしました。
- ③ 旅市、駅長オススメの小さな旅、しおがまさまの月灯り、その他、多数のガイドに参加。

(4) その他の活動

- ① 亀井邸での常駐ガイド（生涯現役・世代継承型雇用創出事業）をおこなっています。
- ② 南三陸での「沿岸部語り部ガイド等育成研修会」（宮城県主催）に当会より、2名が参加。
- ③ 新会員発掘のため、平成 24 年 9 月 15 日に神社境内においてボランティアガイド養成講座を開催。

津太夫、左平顕彰部会活動報告

NPO みなとしほがま・津太夫、左平顕彰部会
部会長 綿 晋

1、パネル展 「鎖国の時代に世界一周した若宮丸の津太夫と左平」

日本人の海外渡航が禁止されていた江戸時代に、若宮丸の船員達は世にも貴重な体験をしました。彼らが見聞した世界の様子は、「環海異聞」に集大成され、ロシア学と世界情報の基本文献となりました。彼らが見てきた世界の一端を28枚のパネルで、市民の方々や観光客に 紹介しました。また、石巻市等のイベントに貸し出し好評を得ています。

① 石巻市 「絆の駅」の復興イベントに合わせて展示した。

- ・展示期間：平成25年2月26日（火）から平成25年6月30日（日）
- ・展示日数： 126日
- ・場 所：「絆の駅」（石巻市立町：アイトピア）
- ・入場者数：4, 300人

② 塩釜2中・塩釜1中の講話会に合わせて展示した。

- ・展示期間：平成25年10月11日（金）から平成25年10月22日（火）
- ・展示日数： 10日
- ・場 所： 亀井邸（塩竈神社裏坂）
- ・入場者数： 550人

2. 研修会 「初めて世界一周した日本人 若宮丸の津太夫と左平」

「つながる湾プロジェクト」講座でNPOみなとしほがま「津太夫、左平顕彰会」の活動と、「若宮丸の津太夫と左平」について講話を行った。

- ・日 時 平成25年7月25日（木） 18時～21時
- ・場 所 塩釜市港町「ビルド・スペース」
- ・講 師 津太夫、左平顕彰部会 部会長 綿 晋
- ・参加者 「つながる湾プロジェクト」メンバー 25名

3. 講話会 「初めて世界一周した日本人 若宮丸の津太夫と左平」

① 塩釜一中・総合的な学習、「地域の文化に学ぶ」講座で、「若宮丸の津太夫と左平」について講話を行った。

- ・日 時 平成25年10月15日（火） 14時～15時
- ・場 所 亀井邸（塩竈神社裏坂）
- ・講 師 津太夫、左平顕彰部会 部会長 綿 晋
- ・参加者 塩釜一中1年生 35名
- ・資 料 「若宮丸の津太夫と左平」の小冊子等及びパネル28枚

② 塩釜二中・「職業人による講話会」の中で、職業訓練や「若宮丸の津太夫と左平」について講話を行った。

- ・日 時 平成25年10月10日（木） 14時～15時30分
- ・場 所 塩釜二中：多目的ホール
- ・講 師 塩釜高等職業訓練校 校長 綿 晋
- ・参加者 塩釜二中2年生 135名
- ・資 料 パネル10枚

4. 小冊子の販売

- ・亀井邸の「塩竈の名産品コーナー」で「若宮丸の津太夫と左平」の小冊子を販売し、PRを図っている。



塩竈市立第二中学校での講演会の様子